

都市養蜂

同志社みつばちラボ(～24年度)→
BeeFG活動／Shigaミツバチラボへ



**Bee Friendly
Garden**
同志社みつばちラボ

近況報告

- 1, 同志社みつばちラボの分蜂
- 2, BeeFG<琵琶湖湖西・志賀>の目的
- 3, 都市養蜂と都市デザイン

3号

2026年度の活動にむけて



1. 同志社ミツバチ ラボの分蜂

◆BeeFG活動（琵琶湖・志賀）

- 琵琶湖湖畔、対に比良山系を見上げるJR湖西線の駅前。
比良山系からの雪解け水が琵琶湖に注ぐ。
蜜蜂に優しい地域づくりを試行。
(2024年5月1日活動開始。巣箱設置は26年春予定)

◆養蜂活動（宇治ハイブ）

- 宇治の畑に同志社ミツバチ3群を引っ越し

◆同志社ミツバチクラブ

- 学生たちの自主的なサークル

養蜂活動

- 同志社ミツバチクラブの有志が梅田ミツバチプロジェクトで修行(2025～)





同志社ミツバチラボ振り返り

目的はソーシャルイノベーション教育プログラム開発。

大学におけるミツバチの実習を伴う授業科目を設置。大学院科目からスタート(2019年より)。
学部授業では、複数の専門からアプローチする授業形態。

学部生、院生、卒業生、地域の人々、多様性と多世代共創を試行
イベント、環境教育プログラムなどを実施。

- ✓ 企業とのコラボは成果が出る。
- ✓ STEAM教育を目指したが途上。
- ✓ 教育プログラム開発は継続。
- ✓ 継承フィールドは、複数の社会課題解決と未来創造の場。新たなモデルづくりに挑戦中。

Bee Friendly
Garden



街づくり・人づくり
生き物に優しい街
は人にも優しい

蜜源を中心とした
果樹や花の公園
造り

生物多様性

公共空間へ

社会実験
ミツバチコミュニティ。
圃場は地域リーダー
の所有地

ガーデンは見た目
も美しい景観に。
地域の魅力づくりに

五感を味わう
環境教育

都市近郊休耕地
等の活用モデルに

近隣大学生による
ゼミ活動

2. BeeFG: BeeFrinedly Gardenの目的

BeeFGとは、ミツバチを介
した街づくりのコンセプト

なぜ都市養蜂？
住みやすさとは？
都市の豊かさとは？



カエル



トンボ

沢ガニ、あゆ



イナゴ？トノサマバッ
タ？



おけら

Beeたち change makers



志賀内外をつなぐ
TaYa



Uji Hive
RyuGo



子ども～学生の感性に
期待

BeeFG



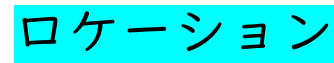


3-1. 都市デザイン

自慢の街、住み続けたい街
にするための公共空間のデ
ザインを考えたい。

住みやすさとは？

・ 参考)

[illegible]

<https://www.google.com/maps/place/%E5%BF%97%E8%B3%80%E9%A7%85/@35.202247,135.9247205,448m/data=!3m1!1e3!4m6!3m5!1s0x600198ca263f7679:0x5c910bd07bd516c8!8m2!3d35.202418!4d135.924699!16s%2Fm%2F03cc9i!authuser=0&entry=ttu>

Bee Friendly Garden @SHIGA Design (案)



他谷安三氏作

湖西線志賀駅下車1分

都市養蜂コミュニティが持つ地域性、連携力を都市近郊に展開する社会実験。

まずは、”Because”モデルのファーストステップであるBe there and excite、Defocusing approachでスタート。

http://library.jsce.or.jp/jsce/open/00039/202112_no64/64-30-06.pdf

詳細な内容是对話通じて探索し、地域の環境と相談しながら進めていきます。

□必須要素(仮説)

土: 未利用地等

水: 地下水汲み上げポンプ

虫: 巣箱&屋根

植: 蜜源

人: 多世代

文: 地域の文化&ハニカムハウス<Art>

□Keywords

- ・Biological diversity
- ・Life centered design
- ・Community involvement

Bee friendly gardenのイメージウェブサイトより



- <https://inhabitat.com/urban-beehive-project-creates-a-buzz-around-honeybee-education/>



<https://www.pinterest.jp/pin/114349278032456703/>



<https://www.pinterest.es/pin/792141021932114705/>

3-2. 都市養蜂

蜂蜜の販売を主たる目的とする大規模な養蜂業と区別した総称。比較的少ない群で、主として建物の屋上など街の中に年間を通じて巣箱を設置する。

日本では、高校や大学等研究教育現場、商店街、民間企業、地方自治体施設、都市緑地公園など多様な現場で実施されている。

都市公園や街路樹、住民の植栽などが蜜源の一部となる。そのため蜂蜜の味に地域性がでる。地域への愛着や地域活性の手法としての位置づけとして活動が可能。また、身近な地域資源の発見につながる。

概して農薬の影響を受けないこと、未利用の施設や空間を活用すること、都会における人々の意識行動と生態系に影響を与えうること、都市における環境教育やいのちの学習になることなどを利点とする。

2006年銀座の屋上で開始した銀座ミツバチプロジェクトを契機として全国的に広がり普及の段階にある。現在は、生物多様性、SDGsの推進を目的とした養蜂がさらに増加傾向。

プログラムの流れ



地域を知る
見通す

Anticipation



Action

○○▽▽A



振り返って次につな
げる

Reflection



主体的に地域を
考える

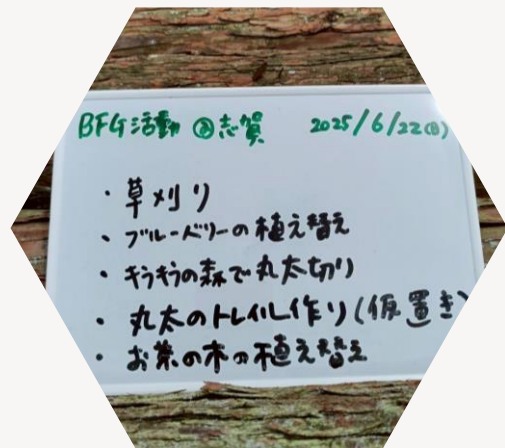
○○▽▽



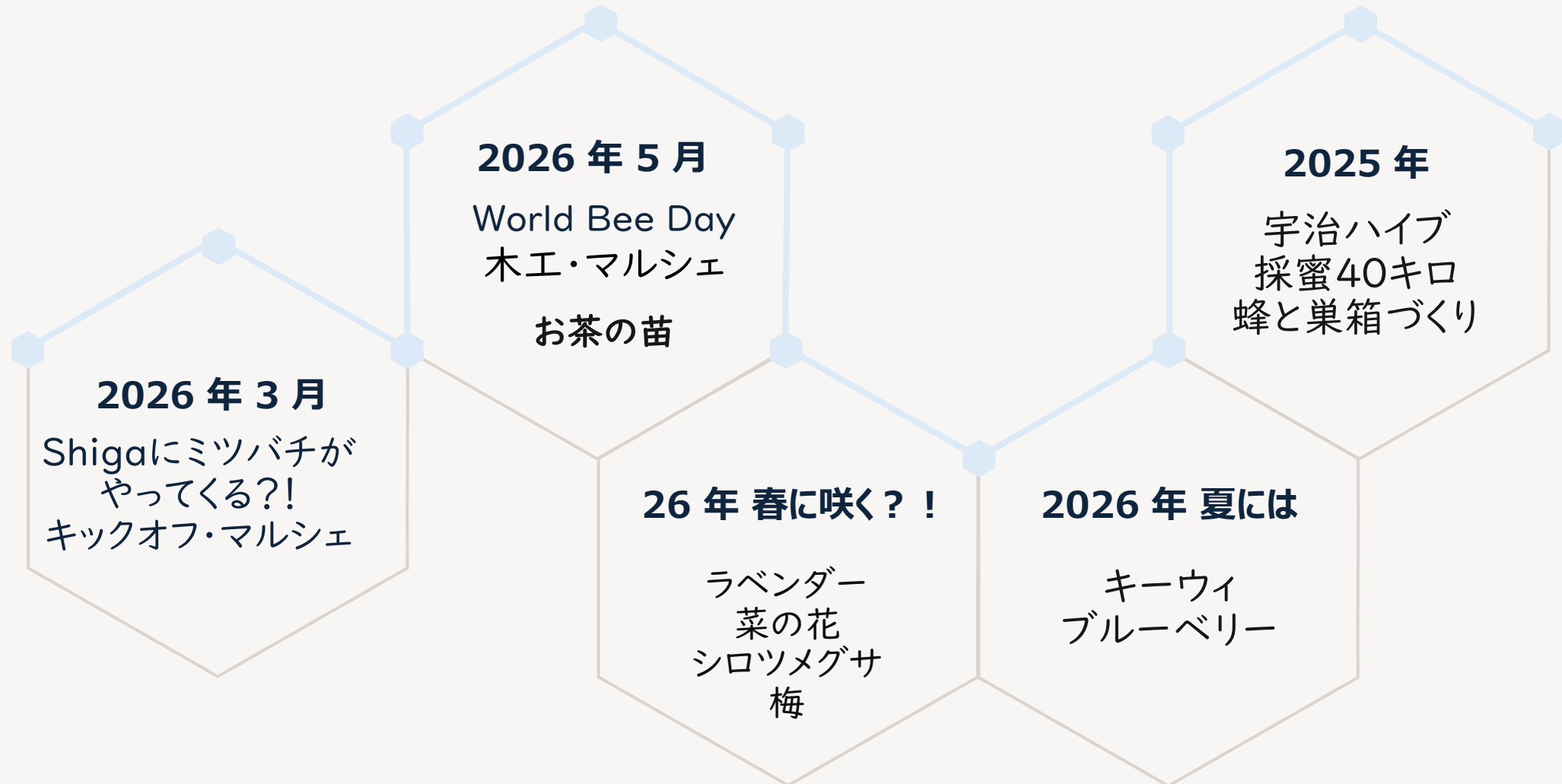
仲間と共に

○○▽▽

キラキラの森から丸太を調達



2025-6年タイムライン＜予定＞



現在の蜜蜂たちは
ロータリー京都東のカーニオラン1群&
水谷養蜂園の2群から成る同志社みつばちラボの子孫たち



2024年10月 水谷養蜂場よりミツバチ到着



宇治育ち

3.28蜂放以降, イベントプログラム

新しい住民,
Bee

ミツバチが作った
スイーツ試食

地域文化を知る

木工WS

ガーデン・デザイン

蜂蜜の秘密
ポスター解説

蜂蜜食べ比べ、

つきたて餅にハ
ニー&きな粉

バームクーヘン

街歩き

Bee Happy看
板

巣箱色塗り

ハニカム
プランター

インセクトハウス

丸太を使って
○○▽▽
苗植え



銀座 & NZショップなど





連絡先

Atsuko Hattori

hattori.atsukoアットyamato-u.ac.jp

www.

Bee Friendly Garden Model 2024年5月1日始動

➡コミュニティでBee Friendly Gardenを作るためには何が必要だろうか？

草原を作るためには、
一輪のクローバーと一匹
の蜂がいればいい
クローバーと蜂
そして、夢があればいい
夢だけでもいいだろう
蜂が少ないならば

(Dickinson, "To make a prairie it takes a
clover and one bee," 金津和美氏訳)

Poems: Second Series



虫や花たちは今日を悔んだり、明日を思い悩んだりせず、今この瞬間だけを懸命に生きています。その生涯を精一杯まっとうしようと、最後まで命を燃やし続けるのです。

そのことに気がいたら、花や葉が枯れて落ちて土に還っていく姿まで美しいと感じるようになりました。

自然は自らの美しさを知らないから美しく、奥ゆかしい。その美しいという感覚は、愛がなければ持つことができません。

同志社みつばちラボ時代の案内



連絡先
同志社みつばちラボ
服部 篤子（同志社大学客員教授・人文科学研究所嘱託研究員）＜当時＞
ahattori@mail.doshisha.ac.jp

About the みつばちラボ

2021年から同志社大学烏丸キャンパス
志高館屋上に巣箱を置き、学部・大学院
の授業でそれぞれ都市養蜂を介在としたコ
ミュニティ創発の社会実験を行っています。
水曜日2限の時間帯に作業を行っています。
見学大歓迎です。

[1118 同志社 写真集8 \(sharepoint.com\)](#)
ドウシシャサステナビリティレポートに掲載されました

ドウシシャ
サステナビリティ
レポート

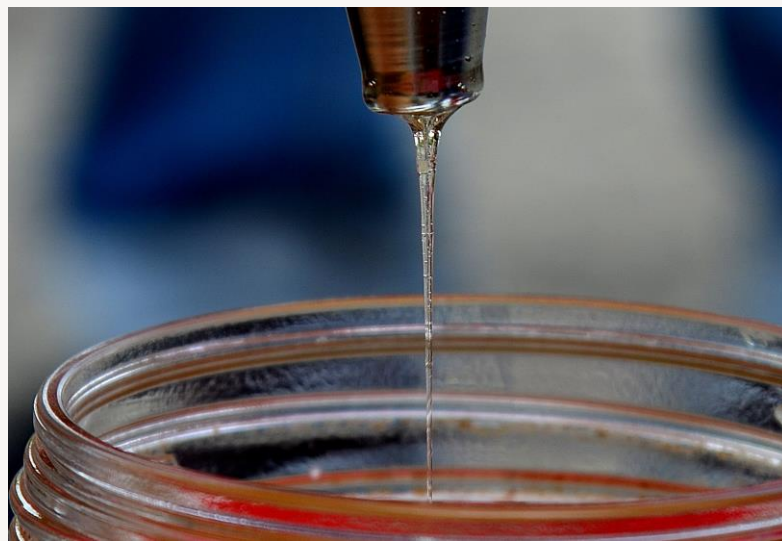
2022



活動紹介 写真



屋上で実施する
都市養蜂活動の
様子



活動紹介写真

身近な草花（蜜源）をいける。
目線を変えて地域を見てみよう！



キャンパス内の梅にミツバチが来る
ようになった。キャンパスが豊かに。

学内の新聞部が活動取材
2024年、学生新聞の記事



蜜源をいける(2024@同志社)



花器は宇治ハイ
ブの竹



野に咲く蜜源



学生たちが選び
ます



ミツバチの気持ちに
なって



作品を披露
みんな笑顔です

「循環型社会を考える」ワークショップの様子

蜜蝋キャンドルとキャンドルホルダー

本ワークショップは、株式会社仲久ーMeBuプロジェクトと共催。
一般社団法人京都智恵産業創造の森の助成金を受けて実施。



「循環型社会を考える」ワークショップの様子 蜜蝋キャンドルとキャンドルホルダー

2023年市内のレストランの協力で作品を展示、
作成意図を伝える



本ワークショップは、株式会社仲久ーMeBuプロジェクトと共催。
一般社団法人京都智恵産業創造の森の助成金を受けて実施。



一般向けイベント

- 2024年、超ECO祭@京都駅前イオンにブース出展・参加。
- 子ども達の集中力に驚かされました。

ミツバチラボの成果と課題

蜜蜂の役割への認知が高くない➡ポリネーターであることの周知が必要

ミツバチも「蜂は怖い」と一括り➡社会的理解への働きかけが必要

都市のセンス・オブ・ワンダーを増やすために。

初等中等で生き物の包括的な教育機会の探索

文理融合教育プログラム開発の必要性

活動の持続性➡ソーシャルビジネス展開

ミツバチラボ「持続可能な共創社会」の挑戦は続きます

大学建物の屋上に巣箱を設置していました。養蜂を通じて「都市における人と自然との関係」を考えるためです。

その結果、人間中心より「いのち」中心の社会・環境をデザインすること、それを具体的に描くことを目指してきました。

この活動は、地域から参加を募った研究ボランティアに支えられてきました。多様な人々が交わる開かれた場、多世代共創の場です。

人とミツバチの関りは数千年前にさかのぼることが洞窟の壁画から推測されています。ミツバチが作る保存食であるハチミツは、人間の食や健康に密接につながっています。

活動を通じてわかったことは、小さなミツバチの神秘性から人は大いに学ぶことがある、ということです。

これからは、地上の圃場でも社会実験を続けます。

